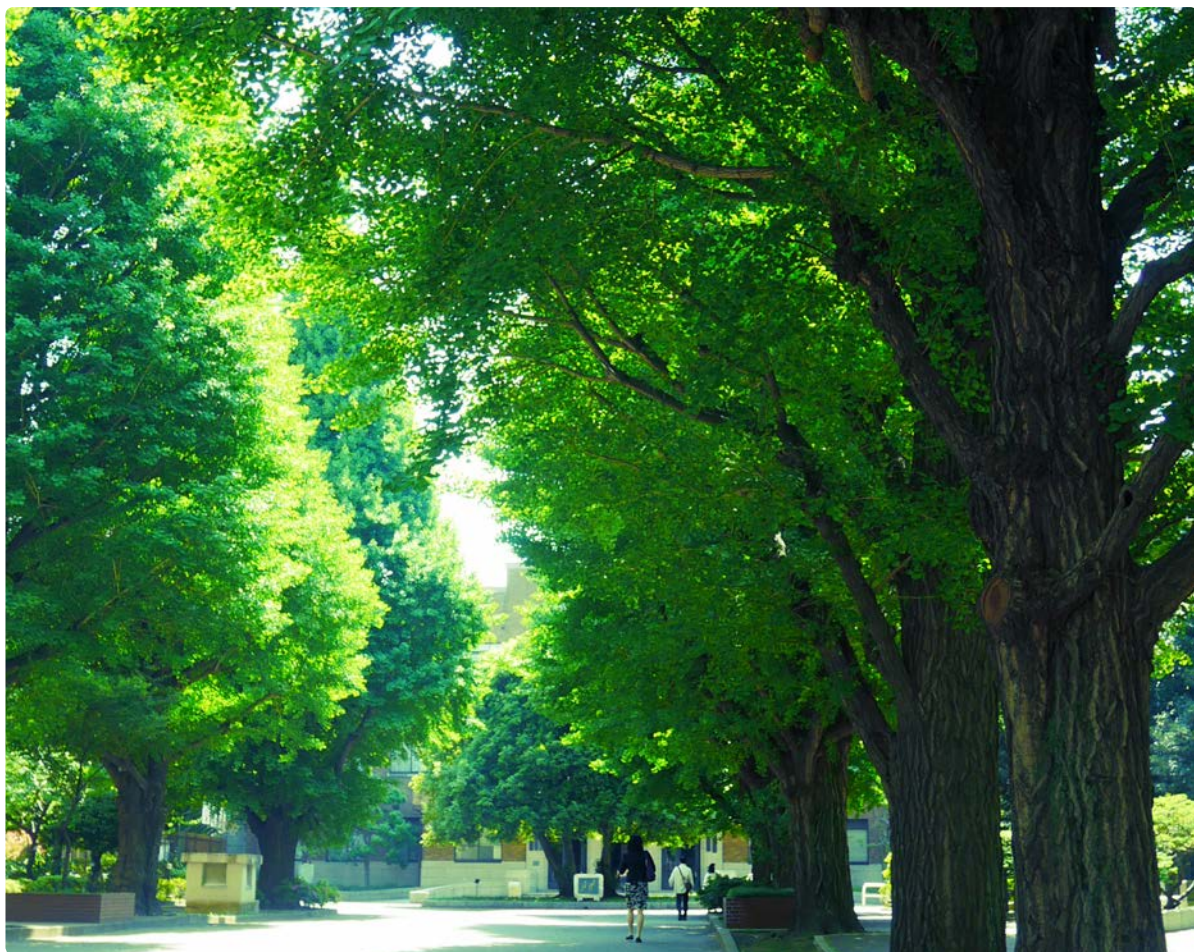


OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第257号 2018年7月14日

OCHADAI GAZETTE Summer, 2018



写真：写真部

学びの扉を開き夢の実現へ

CONTENTS

TOPICS

- | | |
|--|---|
| 学長からのメッセージ 1-2
平成30年度 入学式 学長告辞 | 附属学校園からのお知らせ 7-8 |
| 特集 3-4
国際交流留学生プラザ | キャンパス点描 9-10
● 第8回 ホームカミングデイを開催
● みがかずば奨学金授与式及び学部生成績優秀者
奨学金授与式を挙
● 桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・
錦織チサ工奨学金・アバナード奨学金・KSP-SP
奨学金授与式を挙 |
| 教員紹介 5
● オベル加藤 ナタナエル先生
(基幹研究院自然科学系助教) | |
| 卒業生紹介 6
● 網谷 有希子さん
(人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻 修了) | |



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

平成30年度 入学式 学長告辞

学長からのメッセージ

512名の新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。

お茶の水女子大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

また、お嬢さま方を、今日まで限りない愛情を持って支えてこられたご家族やご関係の皆さまに、謹んでお慶びと御礼を申し上げます。

ご来賓の皆様には、お忙しい中、ご臨席を賜りまして、まことに有難うございます。これからも、新1年生が本学で豊かな学びを続け、成長する姿をお見守り下さいますよう、お願い申し上げます。

今朝早い時刻から、新入生とご家族、ご関係の皆さまが、新しくなった正門の門扉の前で写真を撮っていらっしゃる光景に出会いました。あの門扉は、第2次世界大戦の最中に軍によって供出させられて、その後ずっと仮の門扉が取り付けられていたものですが、昨年、卒業生や教職員の方々のご寄附等によって、昔の形に復元されたものです。丁度、供出当時に学生でいらした卒業生の方から、「新しく門扉が復元されて、涙が出るほど嬉しかった」とのお言葉を頂き、私たちも、卒業生や教職員の方々の70年以上もの念願が叶って本当によかったと、とても嬉しく思いました。

皆さまは、門扉が復元されてから、記念すべき最初の入学生です。

入学式が行われて居りますこの講堂は「徽音堂」と名付けられています。中国の周の時代の故事に由来する名称で、「徽音」とは「美德」を意味します。本学に集う人々が、美德ある人として育つことを願って、本学のシンボルでもあるこの講堂の竣工時に命名されました。本学の学生さんたちは、「徽音堂」で大学生活の一步を踏み出し、4年後に「徽音堂」で卒業の日を迎えます。これまでお茶の水女子大学で学んだ方々がそうであったように、皆さまも、4年間の学びを通じて「美德ある人」として成長して頂きたいと願っています。

なお、国境を越えてお茶の水女子大学に学びの場を求めて来られる方々への歓迎の気持ちを込めて、徽音堂には、日本の国旗や本学の校旗と共に、留学生の方々のお国の国旗を掲げ

ています。今年は、学部と大学院を合わせて、ハンガリー、アフガニスタン・イスラム共和国、タイ王国、中華人民共和国、大韓民国、ロシア連邦、ウクライナの7カ国からの留学生をお迎えしています。

故国を遠く離れた日本に留学して来られた皆さまは、言葉や習慣、生活や考え方、文化や価値観の違いなどに、戸惑われることもあると思います。困った時には、ご遠慮なく、教職員や日本で生まれ育った学生さんたちに声を掛けて、相談して下さい。これからの4年間、それぞれの夢の実現に向けて研鑽を重ね、この徽音堂で卒業の日を迎えて頂きたいと思います。

512名の皆さまが学びの場として選ばれたお茶の水女子大学は、1875年の創設以来、わが国の女子教育の先達として優れた女性達を育て、社会に送り出してきましたが、その間140年余りに亘って、本学が掲げて来た教育の理念は「国境を超えた研究と教育文化の創造を目指し、全ての女性たちの夢の実現を支援する」ことにあります。そして、本学における多様な学びを通して、広い知識や深い見識を身につけ、人類社会が直面する諸課題の解決と新たな価値の創造に役立てていこうとする気概と実力を持つ女性たちを育てることを目標としています。実際に、本学の卒業生の中には、平和で公正な社会の持続的発展のために貢献している方々が数多くいらっしゃいます。そんな方々の姿から、私達教職員も、多くのことを教えられています。

お茶の水女子大学は、文教育学部、理学部、生活科学部からなる小規模な大学ではありますが、大学院研究科における多様な専攻や、教育・研究に携わる特色ある機構やセンターを備え、それぞれが特色ある活動を推進すると共に、それらの組織間の垣根を出来るだけ低くして、学生さんたちが、多様な学びの機会を作れるような、工夫をしています。

また、多彩な学修空間を持つ図書館が一昨日リニューアルオープンしました。さらに、国際交流・地域貢献・世代間交流の3つの目的をもつ集いの場としての「国際交流留学生プラザ」が、来年3月初旬に竣工予定です。本学の学修環境を豊かにし、国際化をさらに推進して、皆さまに有益な経験を積んで頂きたいと考えて居ります。

このキャンパスを舞台に重ねられる学習と体験は、皆さまが将来の夢を形にするためのかけがえのない土台となるはずで

本日、大学生としての一步を踏み出される皆さまには、先ず、





それぞれの夢を実現するための基礎となる「4つの力」を養って頂きたいと思っています。1つ目は「既存概念にとらわれず、原点に立ち返って考える力」、2つ目は「自分を信じて、忍耐強く考え抜く力」、そして3つ目は「新しい発想を生み出す力」であり、4つ目は「自ら判断し、その判断に責任を持つ力」です。これらの力を育てた上で、多様な人々と協働して、平和で公正な社会、人々が幸せに暮らせる社会を創るために努力して頂きたいと思います。そのためには、「様々な背景を持った人々と理解し合い、多様性を受け入れて互いに尊重し合う精神」と、「自らを相対化することのできる客観性」を身につけることが必要でしょう。そして、それらの基盤に立って、夫々の夢の実現に向かって挑戦し、これからの日本と世界を牽引する人材として、活躍して頂きたいと願っています。

もう少し具体的に、大学生としての学びの第一歩を考えてみることに致しましょう。

大学での学びは、これまで皆さまが経験して来られた学びとは、大きく異なっています。高等学校までは、解答が用意された問いに答えるような、一定の枠にはまった受身の学びが多かったと思いますが、大学では、皆さま自身が自由に、そして主体的・能動的に学びに関わることが必要です。学問の世界は、皆さまの前に大きく広がっていますから、それをどのように自分のものにしていくかは、ひとえに皆さま自身の考え方、対応の仕方に掛かっています。出来るだけ早く大学での学びの流儀を自分のものとして、それを楽しんで頂きたいと思っています。

学問の世界は、広く豊かで、時には美しくさえもあります。皆さまが学問する中で、自然の仕組みの巧みさや、法則の美しさを知る時の感激は、忘れられないものになると思いますし、人々が創造してきた文化や芸術などの豊かさを知ること、素晴らしい経験になります。そうした経験に基づいて、広い視点から物事を見て、深く思考することで、新たな発見や独創的な理論が生まれるかも知れません。皆さまは今、そういった素晴らしい学問の扉を開こうとしているのです。

大学生活を送る中で、皆さまの世界は、社会においても大きく広がることと思います。多様な国や地域で生まれ育ち、異なる能力や経験をもった友人たちとの出会いや、大学外での活動の広がりも、皆さまにとって豊かな成長の場となることでしょう。

異なった環境や価値観の中で育ち、しかもそれぞれに素晴

らしい能力や人格を具えた人々と共に、知的な活動や社

会的な活動に自主的、積極的に関わり、研鑽を重ねることは、皆さまを大きく成長させてくれるものです。それこそが、まさに大学生生活の醍醐味だと言えます。

また、皆さまの先輩たちは、学問に情熱を傾けると同時に、東日本大震災などの大規模災害で被災された方々の支援、特に遺児や孤児の支援や、一人親の子ども達や一人暮らしのご老人など、社会的に弱い立場にある方々を支援するためのボランティア活動や、それぞれの趣味を活かし、新たな友人を作るためのサークル活動などにも、熱心に取り組んでいます。

皆さまはこれから、お茶の水女子大学の一員となられるわけですが、新たな場で、新たなことに取り組んでいく時には、それまでに予想しなかった困難に出会うことも考えられます。でも、困難を乗り越えるたびに、人は磨かれて、成長します。それが、自分でも気付かなかった能力や可能性に気付く機会ともなります。既に踏み慣らされた安易な道を歩むのではなく、時には、まだ誰も踏み入ったことのない道を選択する勇氣を持って頂きたいと思います。大学生時代という貴重で贅沢な時間を有効活用して、自分自身の可能性を思い切り花開かせて下さい。本学の校歌「磨かずば、玉もかがみも何かせん。学びの道もかくこそありけれ」にありますように、自分自身を磨き、それぞれの夢を実現させて頂きたいと願っています。

なお「みがかずば」は、1875年の本学の創設に当たって、昭憲皇太后から下賜されたもので、それ以来、大学と附属学校で歌い継がれている日本最古の校歌です。

本日入学された皆さまが、お茶の水女子大学で充実した学生生活を過ごされ、日本と世界の希望溢れる未来を創造することのできる優れた女性として成長されることを願っています。

こころと身体の健康を大切に、学園生活を思い切り楽しんで下さい。

512名の新入生の皆さまとそのご家族、ご関係の皆さま方に、今一度お祝いを申し上げ、これからの実り多い大学生生活を心からお祈りして、お祝いの言葉を結びます。

改めまして、ご入学、まことにおめでとうございました。

2018年4月4日

お茶の水女子大学長 室伏 きみ子



学長からのメッセージ

大学正門の右手に
国際交流留学生プラザが
オープンします！

国際交流留学生プラザ

Hisao & Hiroko TAKI PLAZA

画像提供：隈研吾建築都市設計事務所

国際交流・地域交流・世代交流（同窓会、教職員）の3つの交流や集いの拠点として、「国際交流留学生プラザ」が建設されます。未来開拓基金への滝久雄氏（株）ぐるなび会長・CEO・創業者、本学学長特別顧問 からのご寄附（10億円（うち2億円はパブリックアート））、同窓会（桜蔭会、作楽会、鏡影会、茗鏡会、ちぐさ会）からのご寄附（約3億円）をはじめとして、教職員を含む多くの方々からのご支援を頂き、2018年5月から建設が始まりました。設計については、自然豊かなキャンパスとの調和を含めて、隈研吾建築都市設計事務所によって進められ、国際交流施設と、同窓会活動の拠点としての「同窓会コモンズ」を併設した建物となります。

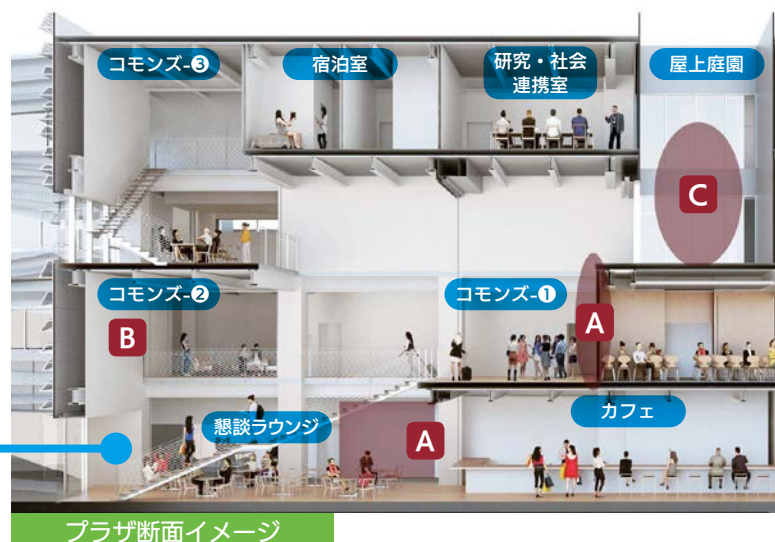
お茶の水女子大学の新たなシンボルとして、多くの方々にご利用いただくことが期待されています。



多目的ホール（イメージ）



憩談ラウンジ（イメージ）



プラザ断面イメージ

○パブリックアート

各階に、陶板レリーフ（日比野克彦氏（東京藝術大学・美術学部長）監修）、ステンドグラス（中島千波氏（日本画家）の原画に基づき作成）、金工造形（宮田亮平氏（文化庁長官、前東京藝術大学学長）作成）が設置される予定です。



A 陶板レリーフ イメージ



B ステンドグラス イメージ

国際交流留学生プラザ建設について

【目的】 3つの交流・集い：国際、地域、世代(同窓会)

【設計者】 隈研吾建築都市設計事務所

【建物名】 日本名 国際交流留学生プラザ
英語名 Hisao & Hiroko TAKI PLAZA

【建物概要】 建物用途：大学施設
建物構造：鉄骨造 地上 4階建て
延床面積：2,328㎡
2018年5月着工、2019年3月上旬竣工予定

【施工会社】 清水建設(株)



大学正門

外観イメージ (国道春日通り側)

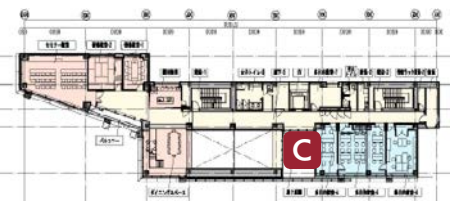


4階【泊まる】



同窓会の多目的室や研究・社会連携室のほか、国内外のゲストや同窓会員、教職員のための宿舎（シングル・ダブル）がある、構内初の宿泊できる空間です。

3階【学ぶ】



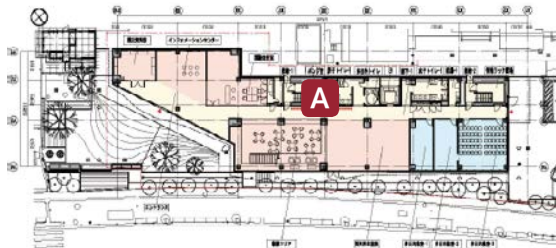
桜蔭会（大学の同窓会）の施設や、学会や一般講座を開催できるセミナー室や研修室のほか、キッチンスペース・ダイニングもあり、分野を問わない様々な知的交流が促進される空間です。

2階【集う】



150人を収容できる多目的ホールや、交流会や発表会を行うことができる commons があり、学内外の行事やイベントで多くの人々が訪れる空間です。

1階【知る・憩う】



インフォメーションセンターや歴史資料館に加えて、国際交流を推進する国際交流室や憩いラウンジ、一般の方もご利用いただけるカフェ、また作楽会（附属高等学校の同窓会）の施設や幼・小・中学校の3同窓会の事務室があり、様々な交流が生まれる空間が創られます。



金工造形（イルカの影）イメージ

【パブリックアート】 制作者・監修者

- ステンドグラス 中島千波氏(日本画家)
- 金工造形 宮田亮平氏(文化庁長官、前東京藝術大学長)
- 陶板レリーフ 日比野克彦氏(東京藝術大学・美術学部長)

教員紹介

今回は、基幹研究院自然科学系助教のオベル加藤ナタナエル先生をご紹介します。ナット先生のご所属は、学部では理学部情報科学科、大学院では理学専攻情報科学コースです。



フランスと日本

それぞれの異なる研究環境には
それぞれに良いところがある。

Nathanael Aubert-Kato

オベル加藤 ナタナエル

Q ご出身、ご経歴などについて教えてください。

私はフランス人で、北西部のブルターニュ地方の出身です。フランスで学士号を取った後、修士課程では、フランス国内だけでなく、ノースカロライナ州立大学（アメリカ）で半年、東京大学で1年間学びました。博士課程は東京大学大学院に進学しました。博士号を取得後半年間、東京大学でポスドクとして研究していました。その後、リーディング大学院の特任助教として、お茶大に約1年半所属していましたが、東工大とフランスの大学の間で研究プロジェクトが立ち上がり、それに参加するためにお茶大を一度離れました。お茶大の印象がとてもよかったので、戻りたいと思っていたところ、お茶大の情報科学科で助教の公募があり、2017年3月に着任しました。

Q 専門の研究についてお話を聞かせてください。

修士課程ではコンピュータ・セキュリティを学んでいましたが、東京大学で分子ロボティクスに出会い、分子コンピューティングにとっても興味を持ちました。現在は分子コンピューティングを専門にしています。分子コンピューティングは、非従来型計算の一種で、分子と化学反応を利用した計算です。従来型の計算機では、数字や文字を入力して、電子回路によって計算が処理され、数字や文字が出力されます。それに対して分子コンピューティングでは、入力も出力も分子で、化学反応によって計算が行われます。課題

は、どうやって複雑な計算を実行するかです。それには2つの方法があります。1つ目の方法は、化学反応についての知識をもとにして、アルゴリズムを提案することです。化学反応のネットワークが、アルゴリズムになります。しかし、実際の化学反応にもとづいて作ったネットワークは、大きくなりすぎる場合があります。ネットワークが大きくなると、そのぶん誤差が大きくなってしまいます。2つ目の方法は、最適化の手法を使って、できるだけ小さくて単純な化学反応ネットワークをデザインすることです。この手法を使えば、化学反応の知識がない人でも、簡単にデザインすることができます。こうしてデザインした化学反応ネットワークを利用して、分子ロボットを意図した場所に動かすという研究もしています。

Q 日本の大学で感じたフランスとの違いはありますか？

まずフランスでは、研究室の規模が大きいです。日本ではだいたい、研究室に教授が1人いて、その下に研究者がいて、学生がいるという構造ですね。フランスでは、一つの研究室に教授や研究者が何人もいて、大きな研究プロジェクトに取り組んでいます。学生は、そのプロジェクトの一部を研究テーマにします。プロジェクトに合わせて研究テーマが決まるので、自分で選ぶ自由は、あまりありません。私は、日本で博士課程に進学したとき、研究テーマは何ですかと聞かれて、カルチャーショックを受けました。研究テーマを自分で考えるということに驚きまし

た。でもこれは、いいことだと思います。自分のやりたいことを考える、よい機会になりました。一方で、フランスのように規模の大きな研究グループの方式にも、いいところがあります。大きなプロジェクトでは、進捗状況の報告会があります。それに参加することで、研究のモチベーションが高まります。

Q お茶大生に向けてのメッセージをお願いします。

研究を進めていくときには、プロジェクトに参加してモチベーションを高めることと、研究テーマについて自分で考えることの両方が大事だと思います。プロジェクトなどに参加せずに一人で研究をしていると、研究室に来なくても平気になってしまうのではないかと、心配です。仲間の研究発表を聞くと、自分も頑張ろうと思えます。そして、自分のやりたい研究について、しっかり考えることも大事だと思います。

文責：基幹研究院自然科学系准教授
工藤 和恵



卒業生紹介

「おいしい」の笑顔を、世界の共通語へ

■営業担当から、会長秘書へ

「『おいしい』の笑顔を、世界の共通語へ」これは、高校時代から変わらぬ私の夢です。その実現には、途上国の栄養改善と、先進国の過剰栄養による健康課題を解決しなければなりません。その双方にアプローチできるのは、「おいしさ」と「いのち」の素、アミノ酸のスペシャリストである味の素での仕事だと考えました。今日の頑張りが、明日の活力を食卓から支える仕事に誇りを持ち、世界のフィールドで挑戦し続けたいという思いから入社しました。

入社後2年間は、加工営業を担当していました。味の素は、うま味調味料「味の素」以外にも、様々な食品の味や風味を向上させることができる調味料や、食感改良に寄与する酵素製剤など、幅広い業務用の商品を持っています。加工営業とは、弊社独自の素材や技術を活かした、食品加工メーカー様向けの調味料等を、商品開発担当、工場長、時には、経営層へ提案し、お得意先様の製品が抱えるニーズや課題を解決する仕事です。栃木県と山梨県を担当していたので、週の大半は、新幹線とレンタカーで出張していました。大学で学んだ、調理学、食品加工・貯蔵学、食品衛生学などの知識を活かすことができ、自身が提案した調味料が採用された製品が、全国で販売された時の喜びは、今でも忘れられません。

昨夏より秘書部へ異動し、会長と社外取締役の担当をしています。秘書の仕事は多岐にわたります。スケジュール管理、来客対応、会食・ゴルフ・お土産の手配、郵便物の処理、執務室の整理……。これらすべてが、役員のパフォーマンス最大化に貢献する仕事であり、私の仕事になります。会社の経営を最前線で担う方々のそばで働くことができる貴重な経験は、何物にも代えがたい刺激的な日々です。

国内外で多岐にわたる事業を展開する会社だからこそ、様々な仕事に挑戦できることが、醍醐味のひとつだと思います。いずれは、自身の専門分野である、開発途上国の栄養改善事業に携わることが目標です。

■困難な状況も前向きに捉え、挑戦し続ける

私は、大学院在学中、東アフリカに位置するルワンダ共和国の東部農村地域に計7週間滞在し、食事調査を行いました。現地では、食材の下処理からはじめ、火起こし、調理、配膳、食事を終えるまで、毎食約2時間かかります。

Amitani Yukiko 網谷 有希子

味の素株式会社 秘書部(会長秘書)

埼玉県出身

- 2013年3月 お茶の水女子大学 生活科学部 食物栄養学科 卒業(管理栄養士取得)
- 2015年3月 お茶の水女子大学院 人間文化創成科学研究科 博士前期課程 ライフサイエンス専攻 修了
- 2015年4月 味の素株式会社 入社
食品事業本部 東京支社加工第4グループ
- 2017年7月 秘書部(会長秘書)



私の仕事は、一世帯に一日中滞在し、朝から晩まで、家族一人ひとりが、何をどれだけ食べたのか、すべてを秤量記録することです。これは、世帯員、特に調理担当者の心理的負担が大きい調査といえます。その中で私は、通訳者と世帯員との会話から現地語を聞き取り、音を真



似て口にすることで覚え、意思疎通を図ろうと努めました(当時覚えた現地語・キニヤルワング語での自己紹介は、今でも、私の特技のひとつです)。手の空いた時間には、子ども達と遊び、水汲みへ同行するため片道3kmの急な坂道を往復した日もありました。その結果、別際にお礼の気持ちを伝えると、「あなたを家に迎えられて私たちも嬉しい」、「息子のお嫁さんに来てほしい」との言葉を戴くほどの信頼を得て、のべ53世帯の食事調査を無事に終えることができました。

調査系研究において、フィールドワークは、研究のほんの一部に過ぎません。大学院在学中は、土日も含め毎日のように研究室へ通い、研究費獲得のために書類を書いたり、データを集計・解析したり、論文を書いたり、学会発表に向けて準備を

したり・・・と、目まぐるしい日々を過ごしていました。

大変と感じたことも多々ありましたが、研究三昧の2年間で、いまの私を支えているといっても過言ではありません。指導教官の手厚いご指導のおかげで、5本の学術論文(和文3本、英文2本)、6回の学会発表(うち、国際学会3回)、DVD教材として、研究が形になることの喜びを味わうことができました。加えて、物事を論理的に考え説明する力や、事務処理能力、英語力など、多くの力を養うことができました。困難な状況も前向きに捉え、挑戦し続ける姿勢は、研究生生活を通じて身につきました。

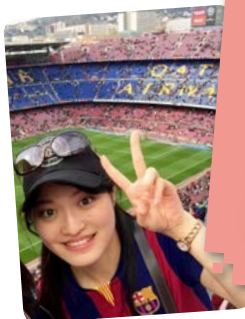
■学生へのメッセージ

「今しかできないこと」を一生懸命にやってください。夢中になって取り組んだことがひとつでもあれば、それは、今後の人生において、かけがえのない経験になります。

文責：基幹研究院自然科学系教授 赤松 利恵

わたしのオフタイム

週末は、趣味のジョギングやゴルフで身体を動かしたり、友人と食事に出掛けたりします。また、年明けから、社会人大学院において、思考力や経営戦略・マーケティングの勉強をしています。長期休暇が取れると、大好きな海外旅行へ繰り出します。直近では、ゴールデンウィークにメキシコへ行ってきました。



附属学校園からのお知らせ

附属高等学校便り



さまざまな探究活動にチャレンジ!

2014(平成26)年にスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受けてから早4年が経過し、今年はいよいよ最終年度を迎えています。この間、生徒たちはグローバルな社会課題の解決に向けて、積極的に探究活動に取り組んできました。

活動の成果を学外に発信するとともに、専門家の評価を受けてさらに探究活動を深めることを目的に、生徒たちはさまざまなコンテストや大会等に参加しています。今回はそうした活動の中から、全国中学高校WEBコンテストおよびMono-Coto Innovation 2017に参加した生徒の活動を紹介します。



うなブルチームメンバー



第20回全国中学高校WEBコンテスト 総務大臣賞およびプラチナ賞受賞

私は4人のチームメイトと共に、2018年2月に第20回全国中学高校WEBコンテストのファイナルプレゼンテーションに参加し、総務大臣賞ならびにプラチナ賞を受賞しました。これは本校の総合的な学習の時間「持続可能な社会の探究I」の1講座である「経済発展と環境」の授業を通して探究した内容を、チームでWEBページにまとめ応募した成果です。

私たちはチーム名をうなぎ×サステナブルシーフードを意味する「うなブル」とし、ウナギを未来に残すこと、持続可能にするための取り組みについて探究活動を行いました。探究を進めるにあたっては、5人で何度も集まり熱く議論を交わしながら、ウナギの現状やサステナブルシーフードについてどのように伝えていけばいいか、さらに消費者にできることは何かを考えました。この活動を通して一番学んだことは、仲間と協働することの重要性です。グループワークでは互いの意見が衝突してしまうことも多々ありました。しかし、そうした衝突を通じて、自分ひとりでは気づけなかった新たな視点を発見し、課題解決に向けて様々な角度から議論し、考察を深めることができた実感しています。



本校メンバー



Mono-Coto Innovation 2017 優勝

私達はMono-Coto Innovation 2017というプログラムに参加しました。このプログラムは「創造力の甲子園」と呼ばれ、世の中に潜んでいる課題に目を向け、それらを解決できるモノ・コトを考えるものです。

予選は昨年8月に行われました。まず最初にチームビルディングを行い、異なる学校に通う初対面の人を含めた4

人のチームを結成しました。私達が向き合ったテーマは「誰かとか何かをつなぐモノ」。予選の6日間、ファシリテーターから様々な示唆を受けながら、最終日のプレゼンテーションに向けて議論を重ねました。私達は「小児入院患者とその家族をつなぐ触感で繋がる電話」を提案し、決勝に駒を進めることが出来ました。

12月の決勝に向けて、私達はターゲットにアンケートを行い、その結果を基に企業の方と一緒にアイデアをブラッシュアップしました。自分たちのアイデアは本当に最適なのか、毎週のように集まって話し合い、試作品を作っては壊す、これを何度も重ねながら、小児入院患者とその親友をつなぐ、ドーム型デバイス「COVO」を完成させました。そして迎えた決勝。1ヶ月間試行錯誤しながら作ったプレゼンテーションで私達の思いを審査員に伝え、優勝することが出来ました。



合同チームメンバー



試作中



試作品実演

附属学校園での出来事 (2018年4月～6月)

【いずみナーサリー】

4月

- 新年度保育開始
- 避難訓練

5月

- 保護者会
- 保育参観
- 災害伝言ダイヤル試行
- 避難訓練 (地震)

6月

- 教育後援会総会
- 避難訓練 (地震)
- 個人面談
- いずみナーサリーの日

【附属幼稚園】

4月

- 1学期始業式
- 入園式
- 保護者全体会
- 避難訓練
- PTA総会
- 小石川植物園遠足 (5歳児)
- 親子で遊ぶ日 (4歳児)
- 同窓会ちぐさ会 第20回ホームカミングデー
- 誕生会

5月

- 子どもの日の集い
- 健康診断
- 親子遠足 (新宿御苑)
- 避難訓練 (引き取り訓練)
- 誕生会
- 幼稚園主催保護者向け講演会
講師：永原 恵三氏
- 教育実習開始

6月

- 親子で遊ぶ日 (5歳児)
- 誕生会
- 避難訓練
- ジャガイモ掘り (4歳児・5歳児親子)
- 親子で遊ぶ日 (3歳児)
- 公開保育研究会
- 足立生物園遠足 (5歳児)

【附属小学校】

4月

- 入学式
- 始業式・離任式・着任式
- 各学年保護者会
- 校外学習 (1年小石川植物園)
- 校外学習 (2年タケノコ掘り他)
- 委員会活動 (5・6年) 開始
- 避難訓練
- 全国学力学習状況調査 (6年)
- かがみ会合同委員会
- 健康診断
- 新入生を迎える会
- 通学班別会

5月

- 授業参観
- 保護者総会
- 教育後援会総会
- かがみ会総会
- 避難訓練
- 郊外園活動 (サツマイモ植え 3・4年)
- 交通安全教室 (1年)
- 帰国児童教育学級保護者会
- 特別支援講演会 (1年保護者対象)
- 教育実習開始
- 運動会

6月

- 校外学習 (1年：多摩動物園)
- 校外学習 (3年：潮干狩り)
- 避難訓練、引き取り訓練
- 校外学習 (4年：野川公園)
- 土曜参観日

【附属中学校】

4月

- 入学式・始業式・新任式
- 1年オリエンテーション
- 避難訓練
- 3年全国学力調査
- 歓迎会
- 全学避難訓練
- 健康診断
- 保護者会・PTA総会・教育後援会総会

5月

- 保護者参観週間
- 1年郊外園 (サツマイモの植え付け)
- 生徒総会・保護者情報講習会・全体保護者会
- 体育大会

6月

- 3年修学旅行 (東北方面)
- 2年林間学校 (志賀高原)
- 1年グローバル・キャンプ

【附属高校】

4月

- 入学式
- 始業式・着任式・対面式
- 新入生オリエンテーション
- 新入生防災訓練 (池袋防災館)
- 3年修学旅行 (沖縄)
- 避難訓練 (地震)
- 自治会選挙・歓迎会
- PTA総会
- 教育後援会総会
- 各学年保護者会
- 春季健康診断

5月

- 1年学年合宿 (諏訪方面)
- 2年SGHフィールドワーク
- 3年学力テスト
- 1年農場実習 (サツマイモ植え付け)
- 台北市立第一女子高級中学校校
- 体育祭
- 面談週間 (～6月初め)

6月

- 自治会総会
- 学校説明会
- 保護者授業参観
- SGH公開授業・運営指導委員会
- 3年GTEC
- 期末考査
- 教育実習
- 2年学力テスト



受賞式にて

私たちのWEBサイトは、日本語と英語で作成してあります。日本人だけでなく、海外の人にも見ていただけたら嬉しく思います。

<http://foreverunagi.jp>



今後もグローバルな社会課題に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

お茶の水女子大学附属高等学校3年
長澤 奈央



Mono-Coto 授賞式

プログラムに参加した5ヶ月間、チームメンバーや企業の方と真剣に議論できたことは、高校の授業では体験できない新鮮なことであり、多くのことを学び、自分たちを成長させてくれる魔法のような時間でした。現在は「COVO」の商品化に向けて努めており、私たちの活動はこれからも続きます。

お茶の水女子大学附属高等学校2年
原 なつ美・坂内 佳永

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

第8回 ホームカミングデイを開催



室伏学長挨拶



内田桜蔭会会長挨拶



校歌「みがかずば」合唱

第8回目となるホームカミングデイを、2018年5月26日(土)に本学において開催しました。当日は大勢の卒業生・修了生・在校生が集いました。

室伏きみ子学長の挨拶、本学同窓会の内田伸子桜蔭会会長からのご挨拶の後、本学の発展に多大な貢献をされた方々に名誉学友記及び感謝状の贈呈が行われました。

全学企画イベント「お茶の水女子大学と子ども学」では、本学卒業生である友定啓子山口大学名誉教授にご講演いただきました。その後、本学教員の宮里暁美教授、浜口順子教授も加わって鼎談が行われました。

貴重なお話を聞きながら、うなずいたり、笑ったりと本学卒業生と在学生が楽しいひとときを過ごすことができました。

午後の部では、学部・学科・コース企画による講演会や交流会、歴史資料館特別公開、リニューアルした附属図書館の見学ツアー、在学生（徽音祭実行委員会）によるキャンパスツアー、お茶室「芳香庵」公開（呈茶）、大学グッズ販売などが催されました。



講演の様子(友定先生)



鼎談の様子(左から宮里先生、友定先生、浜口先生)



キャンパスツアー
(徽音祭実行委員会企画)



徽音祭実行委員会グッズ販売



お茶大グッズ販売
(Ochasスイーツ販売)

次回の第9回ホームカミングデイで皆さまのお越しをお待ちしています。

みがかずば奨学金授与式及び 学部生成績優秀者奨学金授与式を挙

2018年5月23日(水)、平成30年度みがかずば奨学金授与式及び学部生成績優秀者奨学金授与式を挙

行しました。
みがかずば奨学金は、お茶の水女子大学へ入学を希望する受験生に対して、入学後の生活の目処をたててもらうことを目的として2011年度に設立されたものです。今年度は、入試前に出願して内定を得た者の中から、本学に入学を果たした14名の学部1年生が受賞者となりました。

学部生成績優秀者奨学金は、学部3年に在籍する者のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた学生について、これま

での努力を評価し、今後一層の勉学を奨励することを目的として2011年度に設立されたものです。今年度は、学部1・2年次から



みがかずば奨学金

桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・ 錦織チサ工奨学金・アバナード奨学金・KSP-SP 奨学金 授与式を挙行

2018年5月30日（水）、平成30年度桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・錦織チサ工奨学金・アバナード奨学金・KSP-SP 奨学金授与式を挙行しました。



桜蔭会研究奨励賞



大学院博士後期課程研究奨励賞・錦織チサ工奨学金

桜蔭会研究奨励賞は、平成19年に本学同窓会の桜蔭会の助成により発足し、平成25年度入学者より一部制度を変更し入学前予約型奨学金となりました。本学学部から大学院博士前期課程に進学した学生に贈られるもので、今年度は20名が受賞者となりました。

大学院博士後期課程研究奨励賞は、大学院生（博士後期課程）奨学金基金をもとに平成25年度入学者から設立した入学前予約型奨学金です。本学大学院博士前期課程から大学院博士後期課程に進学した学生に贈られるもので、今年度は8名が受賞者となりました。

錦織チサ工奨学金は、平成27年度の大学院博士後期課程入学者から設立された入学前予約型奨学金です。寄附者の錦織チサ様は、昭和38年3月に本学文教育学専攻科を修了され、都立高校の国語科教諭をされておりました。本学大学院博士後期課程に引き続き進学する学生の研究奨励に資するご意向によるもので、今年度は2名が受賞者となりました。

アバナード奨学金は、アバナード株式会社様からのご寄附によって昨年度に設立された入学前予約型奨学金で、本学理工系分野の学生の学修支援を目的としています。今年度は学部1年生2名と大学院博士前期課程1年生2名が受賞者となりました。

KSP-SP 奨学金は、株式会社KSP-SP様からのご寄附によって今年度から新たに設立された入学前予約型奨学金で、マーケティング分野を志す本学大学院博士前期課程の学生の学修支援を目的としています。今年度は3名が受賞者となりました。

式典では学内教職員臨席のもと、室伏学長から賞状を授与されました。

また、学長、桜蔭会副会長の青島様、錦織様、アバナード株式会社 Vice Presidentの和田様、株式会社KSP-SP代表取締役社長の山中様からお祝いと励ましの言葉がかけられました。



アバナード奨学金



KSP-SP 奨学金

引き続き在学する本学学部3年生（中途に休学期間がない者に限る）の中から、厳正なる審査の結果、25名の学生が受賞者となりました。

式典では学内教職員臨席のもと、室伏学長から賞状を授与されました。

また、学長、遠藤桜蔭会副会長、神田橋後援会会長からお祝いと励ましの言葉がかけられ、各奨学金受賞者の中から1名ずつが、代表として謝辞と今後の学修・学生生活への意気込みについて挨拶を述べました。



学部生成績優秀者奨学金



写真：写真部ほか

お茶の水女子大学学报 第 257 号

▽発行日：2018 年 7 月 14 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。